



『山手線のフェスティバル』ドキュメンタリー写真、1962年、ゼラチン・シルバープリント、27x32.5cm 撮影：村井督侍

## ハイレッド・センター

Hi-Red Center - through photographs and works

会期：前期 / 2017年6月23日(金) - 7月13日(木)

後期 / 2017年7月15日(土) - 8月5日(土)

※レセプションパーティーは開催致しません。

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿 #206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝 ※7月14日(金)は展示替えのため休廊

2017年6月23日(金)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、ハイレッド・センター展を開催いたします。

ユミコチバアソシエイツでは、毎年高松次郎の命日に合わせて高松が行ってきた制作活動を紹介し続けてきました。

本年は、高松次郎が作家として制作を開始した初期に、自身の作家活動と同時にに行ったハイレッド・センターによる活動の一部を紹介します。

ハイレッド・センターというグループ名は、それぞれの姓の頭文字であるの「高」＝「ハイ」、「赤」＝「レッド」、「中」＝「センター」を組み合わせてつけられました。正式な結成は、1963年5月の「第5次ミキサー計画」とされていますが、実質的にはその活動は前年12月の「山手線のフェスティバル」の頃より開始されていたと言えます。ハイレッド・センターとして行われた期間は63～64年と短い間ではありましたが、「第6次ミキサー計画」「不在の部屋」「ロブロジー」「シェルター計画」「大パノラマ展」「ドロッピングイベント」「首都圏清掃整理促進運動」などのイベントを次々と実現していきました。

秘密結社的な匂いをまとった行動の一方で、銀座の路上やJRの電車の中やホーム、駅周辺といった公的な場や機関を利用したり、ホテルやビルの屋上などの日常的な場所で非日常的な行為を行ったりと、美術ジャーナリズムだけでなく当時の新聞や一般誌などにも取り上げられ、社会の注目を集めました。ハイレッド・センターと名乗っていましたが、メンバーは流動的で高松・赤瀬川・中西の他に和泉達もメンバーとして活動を共にしており、イベントごとに新たにメンバーが加わることもありました。

彼らの活動は、こうして行ったイベントや行動により、それが芸術か否かという事を制度的に問いかけるものであり、作家と観客との関係性を問い直すものでもありました。

今回、ユミコチバアソシエイツでは展示を2期に分け、前期ではドキュメントフォト、後期では同時期に高松、赤瀬川、中西が制作した作品を展示致します。是非ともご覧くださいませ。



## ■作家略歴

### 高松次郎

1936年2月20日 - 1998年6月25日

美術家。1958年東京藝術大学絵画科(油画専攻)卒業。同年の第10回読売アンデパンダン展へ作品の出品を始める。1961年には点を思わせる抽象的な油彩絵画を出品していたが、第14回には「彫刻部門」に出品し、紐状の作品を発表。1963年第15回読売アンデパンダン展には同様に紐状に作られた作品を使用した《机の引き出しに関する反実在性について》、《トランクに関する反実在性について》、《カーテンに関する反実在性について》を発表し、「点」「紐」と呼ばれるシリーズへと広がりを見せる。その後「影」、「遠近法」、「波」、「弛み」、「単体」、「複合体」、「平面上の空間」、「形」など様々な作品展開を見せるが、物質、実体、言葉、空間についての思考は一貫しており、それを検証するかのようには作品を制作し続けた。

### 赤瀬川原平

1937年3月27日 - 2014年10月26日

美術家・作家。作家としてのペンネームは尾辻克彦。1957年武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)油絵学科中退。1960年、「ネオ・ダダイズム・オルガナイザー」展に参加。1963年、個展「あいまいな海について」(新宿・第一画廊)を開催。この個展で初めて《模型千円札Ⅰ》が印刷され、案内状として現金封筒で送付された。同年第15回読売アンデパンダン展には絵画作品を梱包した「事実か方法か1・2」、赤瀬川の千円札を拡大模写した「復讐の形態(殺す前に相手をよく見る)」を出品。1965~67年には、「模型千円札裁判」闘争が起こる。1981年に第84回芥川賞受賞。以降、美術家としてではなく作家としての活動が中心となり、多くの著書を執筆。路上観察学会、ライカ同盟、日本美術応援団など多くの組織の結成にも関わり、活動をした。

### 中西夏之

1935年7月14日 - 2016年10月23日

美術家。1958年、東京藝術大学絵画科(油画専攻)を卒業。1959年から60年にかけて塗料に砂を混ぜて制作された《韻》シリーズ、1962年からはアクリル樹脂で身の回りの様々な物質を卵型に固めた《コンパクト・オブジェ》を制作。1963年第15回読売アンデパンダン展には《コンパクト・オブジェ》、《韻 '63》に加え、キャンバスに無数の洗濯ばさみを留めた作品《洗濯バサミは攪拌行動を主張する》を出品した。また60年代から舞踏家土方巽と交流を深め、暗黒舞踏の主要な舞台美術・装置を手がけた。1960年代後半からは物質的な要素の強い作品から「絵画」の制作へと主軸が変わってゆき、1970年代から、白、紫、黄緑といった色を基調とする油彩の平面作品を発表するなど、数十年に渡り絵画をめぐる独自の理念を深め、「絵画」というものの根源を模索し続けた。

### ハイレッド・センター(Hi-Red Center)

ハイレッド・センターは、真紅の「!」をシンボルマークに高松次郎(Hi)、赤瀬川原平(Red)、中西夏之(Center)の3名により1963年に結成された前衛芸術グループ(ただしメンバーは3人に限らず、4人目の構成員として和泉達。またこの他にも匿名の構成員がいると言われている)。

### 主な活動

1962年「敗戦記念晩餐会」(国立市公民館)

「山手線のフェスティバル」(山手線・内回り、上野公園)。

1963年「第5次ミキサー計画」(新宿・第一画廊)※「ハイレッド・センター」を名乗って発表した最初のイベント。

「第6次ミキサー計画」(旧宮田内科診療室)

「不在の部屋」展(内科画廊)

「ロブロー」(美術出版社・屋上)

1964年「シェルター計画」(帝国ホテルのロビー及び旧館340号室)

「大パノラマ」展(内科画廊)

「ドロッピングイベント」(池坊会館の屋上と塔屋)

「首都圏清掃整理促進運動」(銀座7丁目、並木通り、北海道新聞社前)

## ■協力

gallery21yo-j、双ギャラリー

---

**【本展に関するお問合せ】**ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチパソシエイツ 担当:千葉、鈴木、加藤

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp

[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日